

監査法人トーマツがガラス張りの労務管理システムを導入した。管理者だけでなく、同じチームのメンバー同士が忙しさを確認できる仕組みだ。徹底的な「見える化」によって状況を把握し、互いに気配りしあえる労務環境を作る。人事本部の滝沢勝己パートナーに詳細を聞いた。

独自の労務管理システム「フルレコードWEB」を導入したのは2016年1月です。月間や年間の残業時間、休日出勤などが多い順に該当メンバーが顔写真で表示されます。メンバーごとにどのプロジェクトで忙しいかも分かれます。我々が手掛ける監査やコンサルティングの業務では

トーマツ
滝沢 勝己氏

人事に聞く

忙しさ見える化徹底



プロジェクトチームのリーダーはメンバーが自分のチーム、他のチーム含めてどれほど稼働しているかが分かって議論する「共有セッション」などが土台になっています。忙しさを踏まえたらうで仕事の割り振りができます。

労務管理システムは全社員・職員に対し13年に実施した「働き方アンケート」や、14、15年に開いた、少数人数グループで丸1日かけて働き方やキャリアについて議論する「共有セッション」などが土台になっています。

気配りしあえる環境に

1人の公認会計士が複数の

チームに所属しながら働きます。つまり常に上司が複数いる状態です。業務の場所も自社や顧客先などばらばらで、一人ひとりの労務管理がやりにくいという課題がありました。

システム導入後、あるプロジェクトに所属しながら働きます。つまり常に上司が複数いる状態です。業務の場所も自社や顧客先などばらばらで、一人ひとりの労務管理がやりにくいという課題がありました。

他にも在宅勤務制度、時間外勤務を免除される「複数型キャリアパス」、キャリア形成を相談できる先輩を付ける「アセッサー制度」もその成果です。

監査業務は企業の四半期決算にあわせて繁忙期が訪れます。特に3月期決算の

監査業務が集中するゴールデンウィーク前後は忙しさを極めます。国際会計基準の適用にあわせて12月期決算に変える企業もありますが、まだ一部に過ぎません。業務の平準化には限界があります。

そこでデータ分析を活用した監査業務の高度化・効率化に力を入れています。例えば100件の取引を監査する場合、精査する案件をランダムに選ぶのではなく、まず担当者別など複数の切り口で分析します。不正リスクが高い案件を集中的に監査することで不正の所在を見つけやすくなります。それは業務の効率化にもつながります。

(聞き手は森国司)